※令和４年度以降入学生用

学校番号	3016

令和５年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	最新「数学Ⅱ」　（数研出版）						
副教材等	自主製作教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は集中して聞き、ノートをきちんと取りましょう。自ら考え、積極的に発表や質問を行い、意欲的に取り組みましょう。
・家庭では、副教材である問題集を使って学習し、授業で学んだ内容の理解を深めましょう。
・問題は、途中式や考え方も書きましょう。各自で答え合わせをしてください。間違ったところは、答えのみを訂正するのでなく、つまずいた部分から書き写し、考え方を理解しましょう。
・提出物は、指示通りきちんとやり、期限を守って提出しましょう。期限を過ぎれば、受け取りません。
・できることを繰り返すことで本当の力になります。宿題や課題をやるだけでなく、予習や復習など自ら学ぶことが大事です。

2　学習の到達目標

指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	三角関数	三角関数 ・一般角 ・弧度法 ・三角関数 ・三角関数のグラフ	a:一般角を表す動径を図示することができる。 b:一般角を動径とともに考察することができる。 c:新しい角の測り方である弧度法に興味をもち，角度の換算に取り組もうとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出ノート	提出ノート 振り返りシート 観察
	指数関数と対数関数	指数関数 ・指数法則 ・指数関数とそのグラフ	a:指数が整数の場合の累乗の定義を理解し，累乗の計算や，指数法則を用いた計算をすることができる。 b:指数が 0 や負の整数の場合も正の整数の場合と同様の指数法則が成り立つことを理解している。 c:指数の範囲を正の整数から 0 や負の整数に拡張する過程に関心をもつ。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出ノート	提出ノート 振り返りシート 観察
2学期	指数関数と対数関数	対数関数 ・対数 ・対数の性質 ・対数関数とそのグラフ ・常用対数	a:指数と対数とを相互に書き換えることができる。 b:対数の性質を考察することができる。 c:指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出ノート	提出ノート 振り返りシート 観察
	微分法と積分法	微分法 ・平均変化率と微分係数 ・導関数 ・いろいろな関数の微分 ・接線 ・関数の増減 ・関数の極大･極小	a:定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 b:関数の極限値を直感的に理解し，それを求めることができる。 c:関数の増減を導関数を用いて調べようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出ノート	提出ノート 振り返りシート 観察
3学期	微分法と積分法	積分法 ・不定積分 ・不定積分の計算 ・定積分 ・定積分の性質 ・面積	a:不定積分の定義や性質を理解し，それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 b:微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 c:積分法が微分法の逆演算であることから，不定積分を求めようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出ノート	提出ノート 振り返りシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度